

奥多摩の森



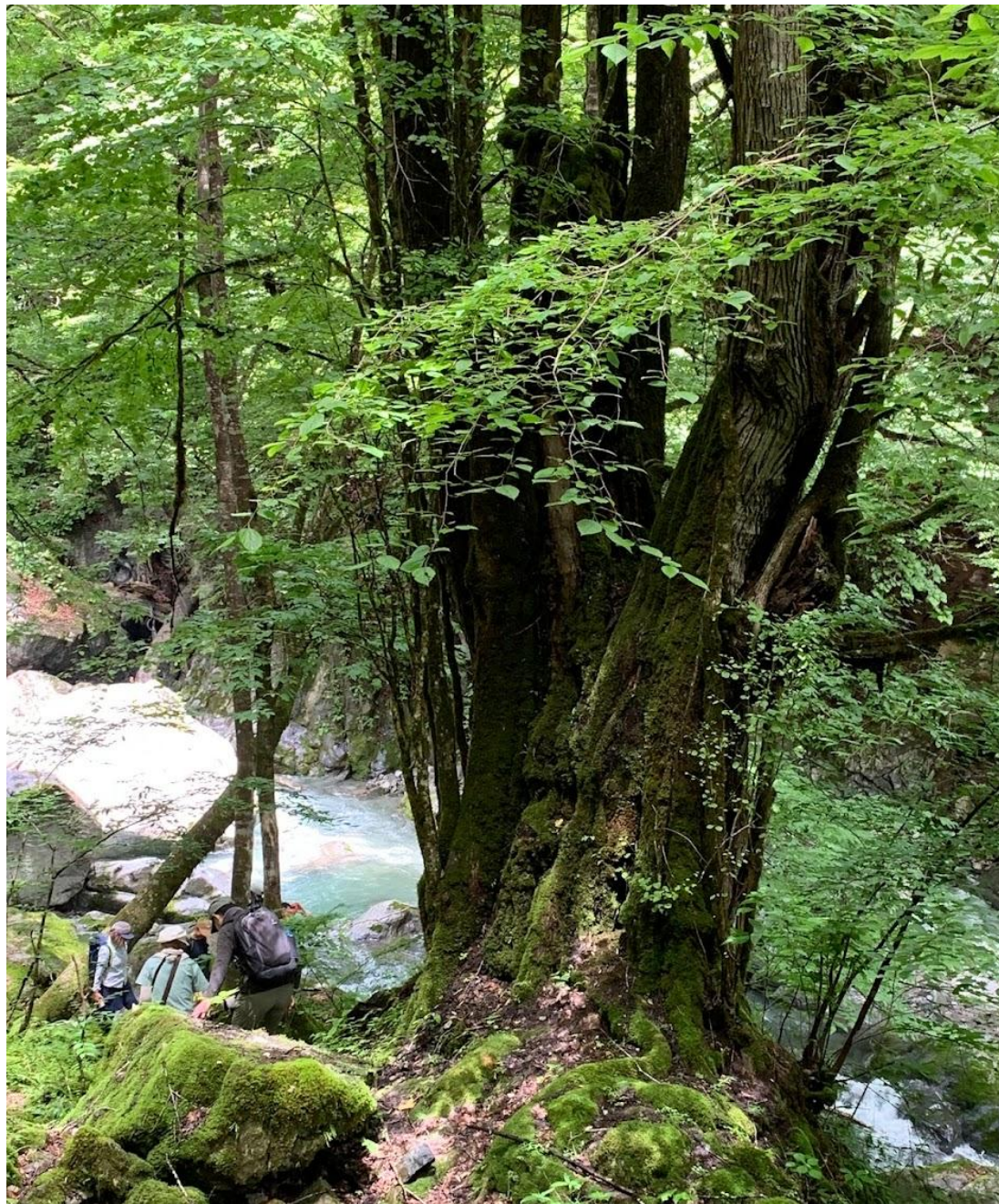
奥多摩

《第77号》

令和7(2025)年

4月15日 発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



ガニ沢の桂（日原）

2023.6.23

奥多摩町は戦後10年となる昭和30(1955)年の4月、当時の古里村、氷川町、小河内村の3町村が合併して誕生。翌年の昭和31(1956)年に奥多摩観光協会を設立。続いて昭和32(1957)年には戦争を挟んで19年の歳月をかけた奥多摩町のシンボル小河内貯水池（奥多摩湖）が完成。そして昭和59(1984)年4月には、緑のオアシス(町の森林率94%)「緑と水のふれあいのさと『森林浴』の町」を宣言。

私たちの奥多摩観光協会「奥多摩 名人・達人観光ガイドの会」は平成12(2000)年4月に発足し、今年25年目を迎えています。

行って来たあよ

No. 21 2月28日(金)開催

高水三山(793m)

前号に、「季節のオススメのイベント」として、このコースについての詳しい説明がされており、興味をそそられて参加させていただいた。

この日は、冬の季節ながら、快晴で温かく、陽射しのある山道は登ると、汗ばむ感じで、木々の日陰に入ると、ひんやり、気持ち良く歩けた。

密教のお寺である高水山常福院龍學寺までの登山道は、山岳信仰にかかわるだけあって、わたくしにとっては急な山登りであった。不動尊が祀ってある本堂に、いつものように、子供や孫などの健康をお祈りした。このお寺には、現在の天皇陛下と皇后雅子さまが結婚後に、一緒に訪れたとのこと。

岩茸石山(いわたけいしやま)では、昼食後、ガイドの方から、本仁田山、川乗山、棒ノ折山などを紹介され、さらに、見えている山並みの向こう側の谷間を西武秩父線が走っているとの説明に、なぜか、感銘を受けた。

2人の若いトレイルランナーが、半そで、短パンで、急ぎ足で、この山頂を通過して行ったのには驚いた。



山頂からは、かなりの角度で下り、その後、東側の展望が開いて、今日登ってきた、高水山と岩茸石山が眺められ、少なからず達成感を覚えた。

それもつかの間、惣岳山(そうがくさん)へは、その日の最も急な岩場の登りが、待っていた。登り切れば、その山頂には、1845年に再建された青渭(あおい)神社の社殿があり、4壁面の木彫りの彫刻は見応えがあり、来た甲斐があったというものである。

御嶽駅への下り路では、大きなチャートの岩石を見た。およそ2億年前に海中で形成され、1千万年前ごろにユーラシア大陸から移動してきたものと、ものの本には説明があるが、いつもながら、その経過に驚きの念を禁じ得ない。

最後に、ガイドさんの的確な指示で安全に登山をさせていただき、おいしい空気を吸い、自然を観察し、歴史を思うのは楽しいものである。ありがとうございました。

友の会会員 梅本 益雄

季節のオススメのイベント

No. 5 5月14日(水)開催

セラピーロード香りの道登計トレイル

奥多摩も春爛漫になり花が咲き乱れ、新緑の眩しい季節を迎えました。奥多摩のハイキングコースで最も人気がある香りの道をご紹介します。香りの道登計トレイルは奥多摩駅からのアクセスは、徒歩20分で森林セラピー(療法)の専用ロードに到着します。

平成21(2009)年4月に日本初の香りの道登計トレイルとしてオープンしました。森林セラピーの集大成のモデルコースでもあり、医学的にロードとして活用できます。全コース1.3kmのコースで国内では初の車椅子専用のモノレールが設置され、森林の景色を楽しむことも出来ます。

香りの道登計トレイルは全コースにウッドチップが敷かれており、木の香りとヒノキ、スギの針葉樹の人工林からは揮発性テルペン類(植物精油)のフィトンチッド(化学物質)が発散され、自然に浴びることにより、気分も良くなりストレスが軽減されて、リラックス効果がでて森林セラピー(療法)になります。

トレイルは平均勾配度8%と緩やかです。4月にはミツバツツジが満開になり、ハイカーを歓迎してくれます。5月の新緑シーズンには眩しいほどの緑に包まれた香りの道を歩き、肌で五感を体験できます。



森林セラピーロードには眺望の広場があり、傾斜した壁面に背中をつけ両手を広げて、木の感触に浸ります。夜間には星座観測と夜景を楽しむ場所でもあります。座観ベンチでは奥多摩の町並みと、山々の絶景を楽しむことが出来ます。コースに沿って行くと、トレイルの斜面から張り出した、ゆったりとした、ウッドデッキは滞在型セラピーの場であり、スギ林の中に浮いているような感覚に浸ることが出来ます。森の中の景色を堪能したり、ベンチもありハイカーの憩いの場所です。又、コースには3棟のステーションが大きな特徴もち、森林浴前後に使い、人工林の中に斬新なデザインが特徴になります。近くにはせせらぎがあり、野鳥のさえずりも体験できます。トレイルの左右には植栽された、花木や山野草が楽しめます。コースを進みますと解放感の高い尾根の広場に出ます。尾根広場にデッキが3か所あり、ストレッチやヨガの体験や休憩場所に最適です。緑に囲まれ、1時間半のコースで森林セラピーの効果が体験出来ますので、また来なくなる香りの道、登計トレイルに是非、来させ〜。

ガイド 山口 茂樹

NO.7 6月16日(月)開催 川苔山(1363m)

JR奥多摩駅から西東京バスにて、川乗橋バス停で下車、川乗林道ゲート脇を通り進むとまもなく笹ノ岩山登山口があります。この先、林道の広い箇所では班分け・準備体操を行い出発します。

今回は、四季を通して川苔山に咲く花々等を紹介いたします。

林道では、フジ、マルバウツギ、ガクウツギ、ツクバネウツギ、オウギカズラ、キケマン等が咲き、川苔谷に架かる竜王橋の手前の岩には岩茸(食用)を見ることができます。



ガクウツギ

キケマン

フジ

左岸に渡り、進むとまもなく細倉橋へ、橋の下にはヤマメの泳ぐ姿が見られます。林道を別れ登山道へ入ると右下に落差のある滝があります。

滝の上流を一つ目の木橋で左岸に渡ると足元にジンジソウ、クワガタソウ等を見ながら登ります。



ジンジソウ

クワガタソウ

エイザンスミレ

低い滝脇の岩場を登り二つ目の木橋で右岸へ、すぐ折り返して三つ目の橋で左岸に戻ります。登山道は狭く徐々に高度を上げて進み川苔谷の流れが下方に見えます。四つ目の橋を渡り尾根を回り込み、河原へ降りて五つ目の橋で左岸へ渡ります。



二つ目の木橋

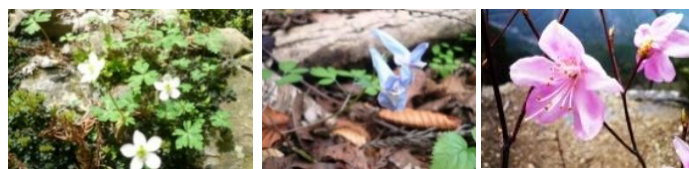
百尋の滝

そこは、百尋の滝から少し下流の岩場から流れ出る、唯一喉を潤せる水場です。

ここからが川苔山で滑落事故の多い箇所になります。歩く先々に滑落注意の標識があります。

近年狭い登山道脇に安全のため鎖が設置されました。最後の標識を過ぎるとようやくホッとする登山道になります。右奥の足毛岩には、春一番に咲くアカヤシオツツジが見られます。

火打石谷の沢を横切る箇所にはニリンソウ等が咲いています。

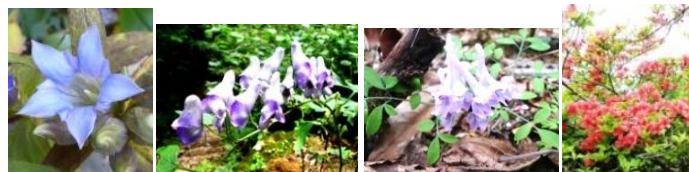


ニリンソウ

ヤマエンゴサク

アカヤシオツツジ

足毛岩への分岐を過ぎ、横ヶ谷の入口に咲く秋の花、リンドウが沢山あり沢沿いにはトリカブトが咲きます。この沢では、春はヤマエンゴサクの群落が見られる所です。いくつもの砂防ダム脇を通り尾根に、尾根に咲くヤマツツジ、トウゴクミツバツツジを見ながら山頂への尾根に出ます。



リンドウ

トリカブト

ヤマエンゴサク

ヤマツツジ

曲ヶ谷北峰側にシロヤシオツツジ、トウゴクミツバツツジが見られます。



シロヤシオツツジ

トウゴクミツバツツジ

山頂下手前でもヤマエンゴサクが一面咲いています。

川苔山山頂左にサラサドウダンの花が、正面には石尾根の山々や雲取山が、木々の葉が落ちた季節には富士が望めます。

舟井戸ではヤマエンゴサク、沢には大きな緑の葉のバイケイソウがあります。

下山途中ではヤマシャクヤク、ルイヨウボタンが見られます。



ヤマシャクヤク

ルイヨウボタン

セキヤノアキチョウジ

大根の山ノ神ではコウヤボウキ・ナガバノコウヤボウキ、クモキリソウが見られます。

また秋には、林の開けた所でアキノキリンソウ、キバナアキギリ、セキヤノアキチョウジ等を見ながらJR鳩ノ巣駅を目指し下山できます。

ガイド 斉藤 全一

「自然の中で わたしが くらし つながり 挑戦できる おくたま」

令和7年度、奥多摩町は町制施行70周年を迎え、また、町の今後10年間の基本構想・基本計画となる第6期長期総合計画がスタートする大きな節目の年となります。

昭和30(1955)年の町制施行以来、観光立町を標榜する当町において、観光振興は重要な施策であり、今回の第6期長期総合計画の基本構想におけるまちの将来像は標題のとおりで、基本計画における観光振興関連では、未来をつくる3つのコンセプトのうち「活性化（創造する・挑戦する）」において、まちの活性化、起業の支援、観光資源の開発・活用などを掲げております。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大時には、緊急事態宣言を受け当町として苦渋の来町自粛要請を行い、その後のまん延防止措置における行動制限（都外への移動制限や施設の入場制限など）を受け、三密を避けるように町内のキャンプ場・釣場等に多くの観光客が来町したものの、感染法上の5類移行後は観光客の分散傾向が続いております。

町観光産業課では、第6期長期総合計画に掲げる施策の推進はもちろんのこと、セラピーウォーク、奥多摩納涼花火大会、奥多摩ふれあいまつり、鍾乳洞サミット、オースタムウォークなど各種観光イベントを町制施行70周年記念事業として大いに盛り上げる一方、2020東京オリンピック・パラリンピックが1年延長も無観客開催であったことから、本年秋季、東京で開催される世界陸上、デフリンピックを通じてインバウンド観光も推進し、当町への観光客の誘客を図ってまいります。

その一方、昨今の観光公害（観光ごみ・駐車場渋滞・BBQ騒音等）にも引き続き対策を講じ、自然保全と観光振興を両立することで、持続可能な観光のまちづくりを推進してまいります。

町といたしましては、奥多摩観光協会、奥多摩名人・達人観光ガイドの会、会員事業所皆様と引き続き連携の上、さらなる観光振興を図ってまいりたく、関係皆様のご理解並びにご協力をお願い申し上げます。

奥多摩町観光産業課長 大串 清文

来さっせえ奥多摩のバックナンバー
をオンラインでご覧いただけます。



奥多摩観光協会

令和7年度 町内外協力イベント

奥多摩観光協会では奥多摩町内で行っているハイキング等のイベントのほかにも、奥多摩町のPRのために行われるイベントにも積極的に協力を行っています。今年度の前半の出店予定です。

4月19日(土)・20日(日)

VERTERE Anniversary Festival

醸造開始から今年の2月で9年となった奥多摩のクラフトビール VERTERE(バテレ)。また、新工場の稼働から1周年を迎え、ますます注目の集まるクラフトビール。今回は青梅市沢井の小澤酒造さんとの初のコラボレーションで日本酒造りの過程で生まれた酒粕を使ったビールも先行発売されます。日本酒の飲めるブースも設置、キッチンカーや企業の出店も予定しています。ビールファン、日本酒ファンのみならず、多くの方々のご来場をお待ちしています。開催地：東京都西多摩郡奥多摩町氷川1099

4月27日(土)

昭島緑花フェスティバル

昭島市役所の駐車場で催されるイベントで、お花や生鮮品など様々なブースで賑わいます。当協会も特産品を持参し出店予定です。開催地：昭島市役所前

5月24日(土)・25日(日)

島じまん 2025

竹島桟橋で行われるグルメイベント。伊豆七島の島嶼の特産の食事を食べられる満腹度・満足度の高いイベントです！多摩地域も物販や飲食などで出店予定です。多摩地域からは少し遠い場所ですが、遊びに行く価値は十分あります。開催地：竹芝桟橋



2023年の開催時の様子

次号発行予定：2025年7月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会